

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-50320

(43)公開日 平成11年(1999) 2月23日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

A 4 1 H 43/00

G 0 6 F 17/60

17/50

F I

A 4 1 H 43/00

G 0 6 F 15/21

15/60

D

3 3 0

6 8 0 J

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平9-220803

(22)出願日

平成9年(1997) 7月31日

(71)出願人 597117145

株式会社レスター

富山県東礪波郡庄川町高儀新32-1

(72)発明者 清水 康次

富山県東礪波郡庄川町高儀新32-1 株式

会社レスター内

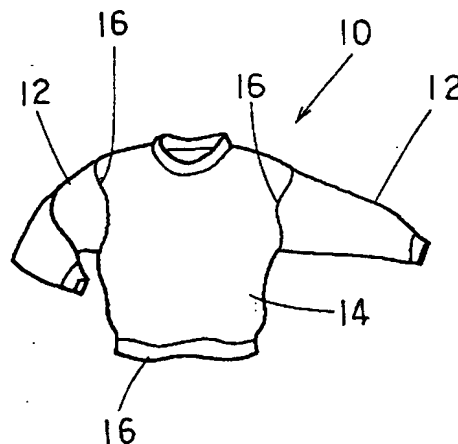
(74)代理人 弁理士 廣澤 勲

(54)【発明の名称】 衣服とその製造方法

(57)【要約】

【課題】 注文者の選択により所望のデザインの衣服を安価で簡単に且つ迅速に製造する。

【解決手段】 予め袖や前身頃など人体の所定の各部位に対応する箇所の部材を複数種類設け、その各部材の縫合部16を同一形状に形成する。複数種類設けられた人体の所定の各部位に対応する箇所の部材の中から、注文者が自分の希望する部材を選択し、選択された部材の同一形状の縫合部16を縫合する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 人体の所定の各部位に対応する箇所の部材を複数種類設け、その各部材の縫合部を同一形状に形成し、各々縫合される部材をそれぞれ選択し組み合わせて縫製して成る衣服。

【請求項 2】 予め人体の所定の各部位に対応する箇所の部材を複数種類設け、その各部材の縫合部を同一形状に形成し、上記複数種類設けられた人体の所定の各部位に対応する箇所の部材の中から、注文者が自分の希望する部材を選択し、選択された部材の上記同一形状の縫合部を縫合する衣服の製造方法。

【請求項 3】 衣服の各部材を、コンピューターの入力装置から注文者が選択し、製品の出来上がりイメージをモニターで確認することが可能な衣服の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、客の注文に合わせて、衣服の各部材を組み合わせることににより製造される衣服とその製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、オーダーメイドにより注文者の希望する衣服を製造するには、まず注文者が希望のデザインを決め、製造者がそのデザインに合わせて型紙を作成し、個々の部材を裁断し、その後各部材を縫製していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の技術の場合、注文服はデザイン決定後に各部位の型紙が作成され、その後個々の部材を縫製するので、出来上がりまでには時間と費用がかかった。また、既成服の中から所望の衣服を選択する場合、人体の所定の各部位に対応する箇所の部材の組み合わせパターンがほぼ決まっており、注文者は希望する衣服にできるだけ近いもので妥協せざるを得なかった。この発明は、上記従来の技術の問題に鑑みてなされたもので、注文者の選択により所望のデザインの衣服を安価で簡単に且つ迅速に製造することができる衣服とその製造方法を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明は、予め袖や前身頃など人体の所定の各部位に対応する箇所の部材を複数種類設け、その各部材の縫合部を同一形状に形成し、各々縫合される部材をそれぞれ選択し組み合わせて縫製して成る衣服である。

【0005】またこの発明は、予め袖や前身頃など人体の所定の各部位に対応する箇所の部材を複数種類設けられた人体の所定の各部位に対応する箇所の部材の中から、注文者が自分の希望する部材を選択し、選択された部材の上記同一形状の縫合部を縫合する衣服の製造方法である。

2

【0006】さらにこの発明は、選択される各部材はコンピューター等に入力されており、注文者はそのモニターにより視覚で組み合わせの過程や出来上がりを確認でき、変更や修正がある場合は、変更や修正する部材の段階に戻って簡単に行うことができる。また、袖、前身頃、後身頃等には切り替えパターンも数種類用意されており、注文者はそれぞれの部位に様々な色を組み合わせることもでき、またプリント、刺繍、ネーミング等を希望すると、それぞれの色、大きさ、デザインも複数種類の中から選択するか、又は注文者が希望のプリント柄や刺繍等を持ち込むことが可能である。

【0007】

【発明の実施の形態】以下この発明の実施の形態について図面に基づいて説明する。この実施形態の衣服 10 は、図 2 に示すように、袖 12 や前身頃 14 など人体の所定の各部位に対応する箇所の部材が複数種類予め用意され、同一部位の複数の部材の縫合部 16 が、それぞれ縫合するもう一方の部材の縫合部 16 と同一形状に形成されている。

【0008】各部材の切り替えパターンや色はそれぞれ複数種類設けてあり、またこれらの組み合わせによる完成イメージの認識を容易にするため、図 1 に示すように、衣服の形態や各部位のパターンや色の選択作業を視覚的に確認できるコンピュータシステム 20 を使用する。このコンピュータシステム 20 は、店舗 22 に衣服の各部分の各種データを記憶し、それらの組み合わせイメージを表示可能なパソコン 24 が設置されている。

【0009】この衣服 10 を作成するには、衣服 10 の注文者がパソコン 24 を用いて所望のデザインを作成する。パソコン 24 は店舗 22 に設置してあるものであるが、来店することができない注文者に対応するため、予め衣服作成プログラムを組み込んだ携帯用のパソコンを販売員が注文者のところへ持参し、注文者はその場で希望の衣服を作成することもできる。注文により決定した衣服 10 は、工場 23 に注文され、縫製される。

【0010】衣服 10 の作成は、注文者がまず最初にパソコン 24 のモニター 26 に表示されている例えばトレーナーや T シャツといった希望の製品の種類を選択し、画面上の決定ボタンをクリックする。ここで、例えばトレーナーを選択した場合、図 4 に示すように、複数種類の前身頃のパターンが各々枠で区切られて表示されたパターン選択画面 27 が現れ、一枠中には一パターンとそのパターンでの金額が表示される。そして、所望のパターンをクリックし選択した後、図 3 に示すカラー選択画面 28 に移り、表示された各部分の色や形の中から希望の色、形を選択しその枠をクリックする。すると、出来上がりイメージ枠 25 には選択した色がついた前身頃が表示される。同時に画面下部付近にこれまでの累計金額が表示される。

【0011】次に、画面右部にあるトレーナーの各部位

3

選択ボタン 3 0 の中から希望する部位のボタンをクリックし、前身頃の場合と同様に表示されたパターン枠から希望のパターンや色を選択していく。出来上がりイメージ枠は前後のイメージがしやすいように前後二枠設けてあり、衣服の前後のパターンが異なる場合にも対応でき、また出来上がり枠において、選択してきた部位を組み合わせた衣服に変更や修正を加えたい場合、画面右部にある各部位選択ボタンの隣にある取消ボタンをクリックし、その部位が表示された画面に移り変更や修正を加えることができる。例えば、図 5 は袖のパターン選択画面 3 0 を示し、各部材の種類は画面に表示されている以外にも表示枠の左右にある前へ、次へのボタンをクリックすることでより多くの種類を見ることができる。そして、各パターンに対するさらに、複数のカラー選択画面が存在する。また、図 6 は、襟のパターン選択画面 3 1 を示し、図 7 は裾のパターン選択画面 3 2 を示す。

【0 0 1 2】注文者は希望するトレーナーに必要な部材をすべて選択した後、さらに刺繍、プリント、ネーミング等を追加することができ、画面右部の部材選択ボタンの中から各々に対応したボタンをクリックしそれらの画面に移る。刺繍の場合、画面に表示された複数種類の刺繍パターン枠の中から希望のものを選択した後、複数の糸の色が表示された画面に移り同様に選択する。プリントの場合、刺繍と同様に提供されたプリントの中から希望のプリントを選択することもできるが、注文者が持ち込んだプリント柄をプリントすることもでき、出来上がりイメージ枠にプリント希望と表示される。ネーミングの場合、ネーミング文字、形、大きさとネーミング位置を指定し糸を選択した後、出来上がりイメージ枠の下部にネーミング希望と表示され、さらに後の注文画面の特記事項欄にネーミング文字、形、大きさ、位置が記入される。注文者は刺繍、プリント、ネーミングは各々をつける位置や大きさを指定することができ、上記のような一連の衣服選択画面の下部にはこれまでの金額が常に表示されている。

【0 0 1 3】注文者は希望するすべての作業を終了し、変更や修正がないことを出来上がりイメージ枠 2 5 で確認した後、モニタ 2 6 の右下部にある終了ボタンをクリックし、注文書画面に移り、注文者の郵便番号、住所、氏名、電話番号、希望枚数とサイズをそれぞれ記入欄に書き、ネーミングを希望している場合は特記事項欄に衣服作成画面で作成したネーミングが正しく書かれてあるか確認する。また、希望の送付先がある場合は、送付先記入欄に郵便番号、住所、氏名を記入し、すべて記入した後、画面下部にある注文確定ボタンをクリックする。

【0 0 1 4】注文者へは注文書の控えとして注文の日時、注文者の住所、氏名や特記事項等、衣服の前方向と

4

後ろ方向を図示した出来上がりイメージ図、さらに衣服の各部位の構成パターンと合計金額を記載した者が送付される。注文を受けた店舗や訪問販売員は、衣服の各部位の構成パターンや出来上がりイメージ図等が書かれた用紙を工場に送付し、工場から出来上がった製品を受け取り注文者に送付するか、又は注文者に連絡し、注文者が店舗へ取りにくる。代金については、注文者が衣服を受け取った後、銀行等公共の施設を利用し振り込むか、又は店舗へ出来上がった衣服を取りに行ったときに支払うようにする。

【0 0 1 5】上記のような一連の各部位のパターンやデザインの選択は、衣服全般に適用できるものであり、よりオリジナリティのある商品を短期間に低価格で提供することができる。

【0 0 1 6】なおこの発明の衣服は、Tシャツやトレーナー以外に、セーターやコートその他の上着、さらに、ズボンやスカート等も応用できるものである。

【0 0 1 7】

【発明の効果】この発明は、衣服の各部材を複数種類設け、その部材の縫合部を同一形状にすることで縫合パターンを単一化でき、きわめて安価にオリジナリティの高い衣服を製造することができる。また、注文者は自分の希望に添った各部材をコンピューターのモニター等により、視覚で認識しながら選択していくことで完成品を容易にイメージすることが可能になった。

【図面の簡単な説明】

【図 1】この発明の実施形態の注文の流れを示す概略図である。

【図 2】この発明の実施形態の衣服の例を示す正面図である。

【図 3】この発明の実施形態に使用されるパソコン及びモニタ画面の概略図である。

【図 4】この発明の実施形態の前身頃パターンの選択画面を示す図である。

【図 5】この発明の実施形態の袖パターンの選択画面を示す図である。

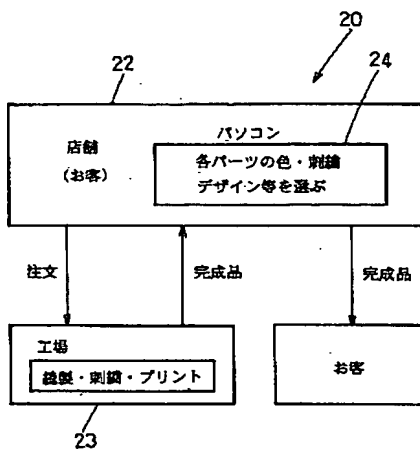
【図 6】この発明の実施形態の襟パターンの選択画面を示す図である。

【図 7】この発明の実施形態の裾パターンの選択画面を示す図である。

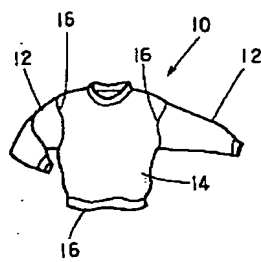
【符号の説明】

- 1 0 衣服
- 1 2 袖
- 1 4 前身頃
- 1 6 縫合部
- 2 4 パソコン

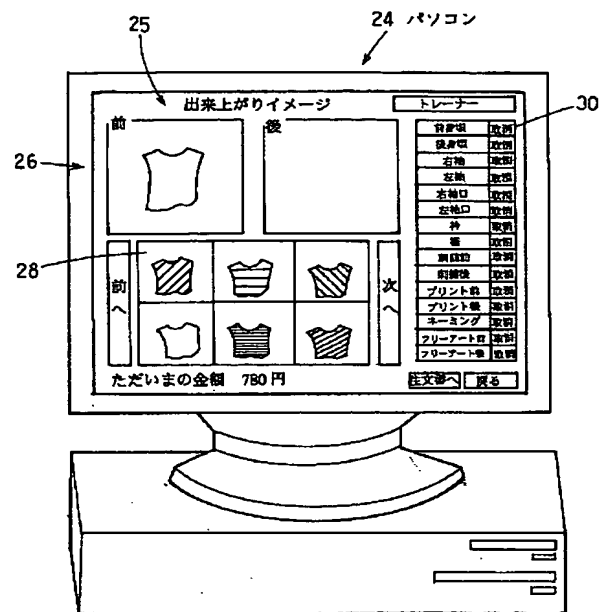
【図 1】



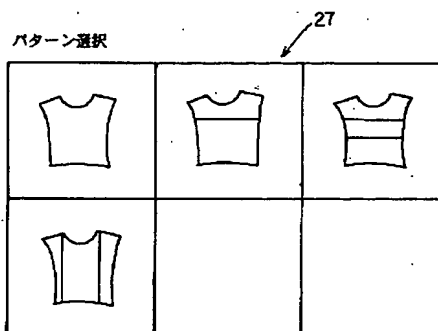
【図 2】



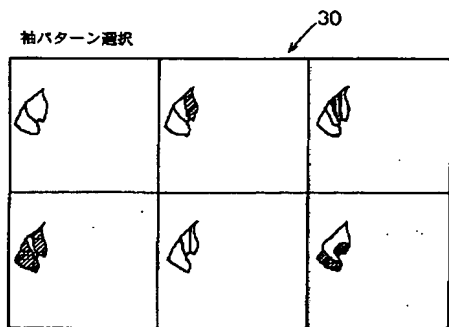
【図 3】



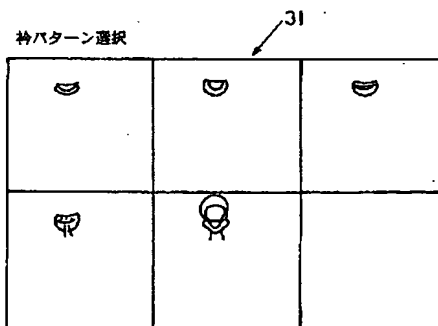
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

